(第三種郵便物認可)
(大正八年三月七日)

昭和九年二月一日 THE IWAKIJIHO (木曜日) (第五千九百七十六號) (一)

岩城時報

廿一日刊

福島縣石城郡平町紺屋町吉
編輯兼發行人 岡田弘成
印刷所 福島縣石城郡平町紺屋町吉
印刷所 加納活版所
福島縣石城郡平町紺屋町吉
發行所 磐城時報社
一部金貳錢一ヶ月金卅錢
廣告料一行吉字詰金五十錢
▲日刊(日曜、祭日)休刊

青沼町村長會長 縣下農民大會招集

東北農村救濟の實現決議 陳情團を激勵に決す

その後引續き滯京して「東北を救へ……」と血の叫を續けてゐる東北農村陳情團はその後全東北の農民を擧げて飽まで初志を貫徹する事になり滯京中の釘本縣會議長は昨三十日電話を以つて本縣町村長會長青沼町長と運動方法その他を協議した結果青沼會長は直ちに全縣下町村會支部に檄を飛して猛運動を起すことゝなり來る六日福島市に縣下農民大會を開催に決定した。即ち同大會に參加するのは縣下町村長、町村農會、耕地協會、耕地聯盟、その他各種農民團體で此の烽火によつて全東北に農民大會開催の渦を捲き起し陳情團を激勵東北農村救濟の實現を要求する筈である。

忠魂碑建立

四倉在軍分會 建設費募集

四倉町四倉在鄉軍人分會では此の程協議の結果總工費一千六百圓を投じて忠魂碑を建立する事に決定工費は町內有志の寄附に仰ぐことゝなり會員總出で建設費の寄附募集に着手したが大体同町小學校庭に敷地決定の見込である。

野崎氏就任受諾

玉川後任村長問題解決 明日村會で條例を改正

(昨報)玉川村の後任村長問題は平町の自宅に野崎氏を訪ひ村長就任を要請した結果野崎氏も此反西丸派の結束に依り同村出身の野崎縣議擁立の空氣次第に濃厚となつたので西丸派も結局此れを快諾した。同村では豫定の如く明一日村會を召集有給村長設置の條例を改正認可あり次第表明するに至つた爲め急促に進展昨三十日西丸氏等一行七名は野崎氏村長案は實現を見る筈である。

平署管下の消防組頭會

平署管下の消防組頭會は既報の如く昨三十日平署會議室に於いて開催、優良消防組員の表彰を協會に申請する事、並に幹部大會を平町に開催することを協議した。

勿來校學藝會

勿來小學校では來二十六日兒童學藝會を催すことに決定目下全生徒が猛練習中であるが、一般父兄に公開するために三月一日に學藝大會を催すべく計劃中。

四倉銀行解消

四倉産業會社として甦生 理由書を附して當局に申請

四倉銀行では二十九日定時株主總會を開催協の結果、銀行としての存續不可能により産業會社に轉向すべく四倉産業株式會社に組織變更する事になり次の如き理由書を附して大藏當局に許可の申請を爲した。

理由書

本行は昭和三年十一月預金取付有りて以來圓滿なる營業をなす事得ず加ふるに次て起りし財界の不況は貸付金の固定欠損續出し益々困難に陷るのみにて銀行本來の業務を營むこと能ず今日に至り候處目下の財界狀況にては近き將來に復活の見込無之此際斷然業務廢止を決行し産業會社に轉行する◎適當なりと認め今般株主總會に於て銀行業を廢止し四倉産業株式會社として存續の決議をなし認可申請に及びたる次第に候

近く役員會招集

專務理事を決定 主事は認可あり次第人選

專務理事星野清吉氏の死去に依つて理事一名の欠員を生じた爲らの認可指令がないので認可あり次第直ちに人選主事一名を常置する筈だが、大體役員會は二月八日頃開催の豫定である。

勿來町で 軍事講演會

藤井中佐を迎え

勿來町小學校、在鄉軍人分會、青年團共同主催で目下郡下青年訓練所の査閱の爲め來郡中の査閱官藤井中佐を迎え昨三十日午後六時から同小學校講堂で軍事講演會を開催したが非常な盛會であつた。

勿來校で 暖飯器設置

父兄喜ぶ

勿來町勿來小學校では多期中兒童の辨當を暖める爲め暖飯器二個を設置する事に決定目下工事を急いでゐるが、同方部で最初の試みだけに兒童は勿論父兄連も大喜びである。

好間で 人骨發見

三十日午後二時頃好間村字上好間地內の區救土木工事倒所から人骨一体を發堀驚ろいて平署に屆出たが、洪水に溺死したものゝ人骨らしい。

大野村大字玉山の部落共有林中 居直り犯人

懲役一年 昨日判決言渡

植田町の居直强盜犯人岐阜市大宮町生れ前科三犯栗本市兵衛(三一)はその後正式起訴や支部中島裁判長係りで審理中であつたが昨三十日公判開廷の結果同裁判長から懲役一ヶ年の判決言ひ渡しあつた。

列車の中で 一稼ぎ

平生れの少年

平町立町大峰周次郎長男喜正(一八)假名はその後引續き平署の取調を受けてゐるが、去二十五日夜埼玉縣川口市幸町三町目戸澤車製作所を解雇されて歸宅の途中列車の中に乘り合はせた郡山市堂前大久保常吉(一六)假名と共謀して同乘の栃木縣姿川村小川朝吉氏のトランクから現金三十余圓を窃取した事判明した。

玉山部落林燒盡

十四時間燃え續けて

大野村大字玉山の部落共有林中から三十日午前零時頃發火したが火勢猛烈で同村消防組、四倉消防組等現場に急行消火に努めた結果同日午後二時部落共有林約一町歩を嘗め盡して鎭火した發火原因その他四倉署に於いて調査中。

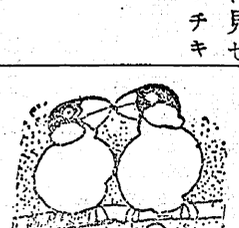
インチキの不具者

手を懷に入れて袖をブラ〳〵 お巡さんの眼力に見現される

二十九日正午頃大野村玉山部落生れ黑澤市治(三九)で各地を放浪してゐる中腐不具者になる事を徘徊してゐる一見勞働者風片手の無い擧動不審の男あるを同村駐在平塚巡査が發見取調たところ、此の男は當時住所不定無職岩手縣伊澤郡小山村大字駒込

越之家主 田中氏長逝

平町二町目旗亭越之家主田梅中吉氏は永らく病臥中であつたが今三十一日午前七時四十分遂に長逝された、葬儀は明後二日午後一時自宅出棺明寶寺に於いて佛式の告別式を擧げる。



新花田町暦

◆寸足らず!では湖月小里と好一對の三島家君枝、一寸見ては子供ッ氣の拔けない初々しい容子だが、あれでどうして唄だつて三絃だつて若いに似合ず達者なもの……

一日・十五日特賣デー
上味噌一貫匁四十四錢
平マーケット
平町田町通

信用のある牛乳
鈴木牛乳舍
鈴木久二
平町北目町

◆そんぢよ、そこらに轉ろがつてる代物とはチト物が違ふと言へば、その「物」なんだが「喰ひ付いたら離れない?…」と驛のナーさんニタリ〳〵
◆短い方では君枝、小里に遜色のない吉野家の千松、八呼んで西洋人……もチト古いが別段顏だつてアングロ系やインデアン系にも見えないし何んで此んな尊稱が生れたか?知つてる人は手を擧げな…
◆名付け親は白銀のターさんで營めたり、シャブツたりムニヤ〳〵……「ハツーキリイフナ」

支那そばなべ燒

しるこ。ぞうに……（各々五錢）

◎配達迅速

平町字四丁目

生そば　十一屋

女中至急入用　十六才より廿三才位まで

電話三七三番

スヤリメ防寒

＊專賣特許毛メリヤス＊

防虫加工メリヤス……三圓・三圓五十錢
防縮加工メリヤス……二圓五十錢・三圓

防虫加工（夏季ノ保存ニナフタリン彰腦イラヌ絶對虫ノ喰ハヌ特許品）

防縮加工（御無理ナオ洗濯ニモ絶對チヾマラヌ特許純毛メリヤス製品）

御婦人向、オ子サン向實用防寒メリヤス毛製品

平四　ツルヤ　電一四〇

産科　婦人科

午前宅診
午後往診

平町字仲田町

◎入院隨時
◎自の便あり

井坂醫院

電話五五九番

吉田眼科病院

平町紺屋町
電話六八番

時代の要求　正月三十一日迄（夜間十時迄）

東京　和洋家具百貨大陳列大安賣會

十ケ月拂、其他蓄音器、毛織物製品豐富

◎新荷到着　東京

元平魚市場跡　丸和商會出張部

夜間診療

胃腸　性病

内科　胃腸病科

花柳病科　性病科　泌尿器病科　皮膚病科　肛門病科

專門

松村胃腸性病科醫院

（平町南町・電一〇七番）

内科　小兒科　花柳病科

（入院應需）

藤沼醫院

平町紺屋町
電話平四五〇七番

移轉御知らせ

弊店儀毎度格別の御贔負御引立を蒙り御蔭様にてに日増し繁忙を極めて居ります厚く御禮申上げます。

今回店舗擴張のため東隣に移轉致しました益々勉強仕り御厚志に酬ひる考ですから倍舊の御引立に預り度う存じます。

先は移轉御通知まで申上げます。

平町字一丁目

不藤寅

菊地寅次郎

製造販賣

小溝せんべい

製造所　平町北目町

毎度有がたう御座います

兎肉百匁二十錢

兎肉販賣店

鯨岡徹二　平町北目町

二月三日（舊十二月廿日）

節分　豆まき

一、縣社子鍬倉神社社頭に於て
一、午後一時より修祓家内安全祈禱
一、同二時より豆まき執行
一、會費　二十錢（御祈禱札と福豆呈上）
一、歳男御希望の御方は各町世話人又は紺屋町事務所に御申込下さい。

石城福わ内會

當日午後二時花火合圖に豆まき執行、大金豆御拾ひの方には福袋進呈、小豆金豆は魔よけとなる。

電話開通

目下平町にて大評判の

エビス屋食堂に

此程電話四三九番を新設致しましたから御利用を願ひます。

天どん　十五錢
うどん、そば（各）　五錢
ライスレカー　十錢ヨリ
支那そば　十錢
上酒　二十錢ヨリ
其他各種

平驛前　エビス屋食堂

御會葬御禮申上候

星野輝吉
外親戚一同

御會葬御禮

中村具瞻

父田子英吉儀病氣ノ處療養不相叶一月二十八日午前六時石城郡三坂村自宅ニ於テ死去致シ候ニ付生前辱知各位ニ謹告仕候

追而葬送ノ儀ハ來ル二月一日午後一時耕山寺ニ於テ佛式ニ依リ告別式相營ミ可申候尚ホ遺言ニ依リ分骨埋葬式ヲ二月十三日午後一時福島市田子健吉宅ニ於テ相營ミ信夫山墓地ニ埋葬可仕候

喪主　男　田子健吉
田子昇平
田子慶三郎
吾妻六郎
田子孝季

親戚總代　田子四郎治
吉田四郎
吾妻準治
遊佐顯太郎

友人總代　八田宗吉
宗像利吉
氏家清

昭和九年一月廿八日

夫梅吉儀永々病氣の處養生相不叶本日午前七時四十分死去致候間御通知申上候

追て葬送の儀は來る二月二日午後壹時自宅出棺明賢寺に於て佛式に依り相營み申候

昭和九年一月三十一日

田中マキ
外親戚一同